

奄 美 大 島 の 代 表 的 な 植 物

島のシンボルと呼べる植物がいくつかある。

Fragrant screw pine / *Pandanus odoratissimus* / Adan / アダン

アダンは砂地や岩場、時には山の傾斜の下にある海岸近くに群生する樹木で、奄美大島や熱帯・亜熱帯の地域に自生する。高さは 5m 以上にもなるが、地面と接触するように生えることが多い。葉は棘のように鋭く、大きな実はパイナップルのような形をしている。気根は細い幹から地面へ向かって垂れ下がり、強い海風にも耐えられる。そのため、嵐や高波から守るため、海岸沿いに植えられることもある。

Sago palm / *Cycas revoluta* / Sotetsu / ソテツ

ずんぐりとしたソテツは、樹木のような幹をもち、常緑の大きな葉を茂らせているが、ヤシではなく、針葉樹やイチョウと同じ裸子植物である。数百年をかけゆっくりと成長するソテツは、ジュラ紀（2 億 100 万年～1 億 4500 万年前）には多く生息し、植物学者は「ソテツの時代」と呼んでいる。また、苦しい時代に島民は有毒な果実を粉に加工し、でんぷんを食生活の足しにした。現在でもこの粉は、なり味噌と言う味噌の材料として島では使われている。

Inedible taro / *Alocasia odora* / Kuwazu-imo / クワズイモ

クワズイモの根は地上に突き出る特徴をもち、奄美大島の森林の少し陰った場所に多く生息する。長い茎の先には傘としても使えそうな大きなハート型の鮮やかな葉がある。タロイモに似ているが、根は毒を持ち食べられない。

Bellflower cherry / *Prunus campanulata* / Kan-hizakura / カンヒザクラ

奄美大島の山林の外側に見られる亜熱帯性の山桜は高さ 10m にもなり、花は濃いピンクから白く、下向きのベル状の形をしている。本土の桜とは異なり、12 月から咲き始め、3 月まで花が咲く。観光客には人気の木だが、島では侵略的外来種である。

Japanese banana / *Musa basjoo* / Basho / バショウ

バナナ的一种であるバショウは高さ 2～3m にもなり、葉はとても大きく、果実は栽培されたバナナに似ている。古くから琉球列島と奄美群島の人々は葉の繊維を使い、ばしやぎんと言う着物の布を作ってきた。有名な俳人・松尾芭蕉の名は、庭に生えていたお気に入りのバナナの木からの由来という。